



久万美
メッセ

自由の再来



三好滋展

2021 4.17 [土] > 8.29 [日]

【開館時間】 9:30~17:00(入館は16:30まで)
【休館日】 月曜日(但し5/3、8/9は開館)、4/30(金)、5/6(木)、8/10(火)
【観覧料】 一般500(400)円、高大生400(320)円、小中生300(240)円
※()内は20名以上の団体料金
※高齢者(65歳以上)・身障者・療育割引の方は証書・手帳等の提示で半額。

【主催】 町立久万美術館、久万高原町
【後援】 愛媛新聞社、愛媛CATV、FM愛媛、FMラヂオバリバリ、
久万高原町教育委員会

■注意事項
※展覧会の会期および関連事業は、新型コロナウイルスの影響により変更になる可能性があります。
※新型コロナウイルス感染防止対策のため、関連事業にご参加の際は、お名前・ご住所・ご連絡先を控えていただきます。



KMA
Kuma Museum of Art
町立久万美術館

自由再自由の 来

久万美
メッセ

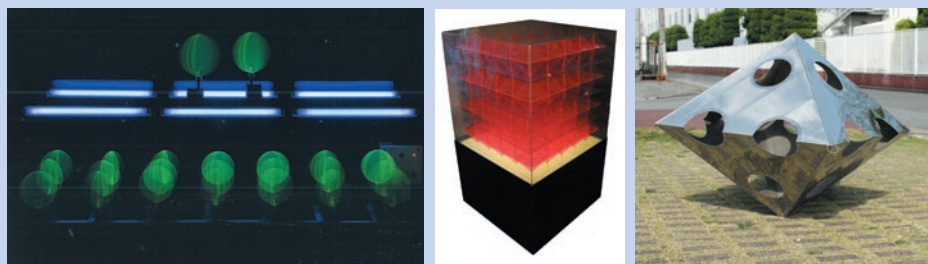
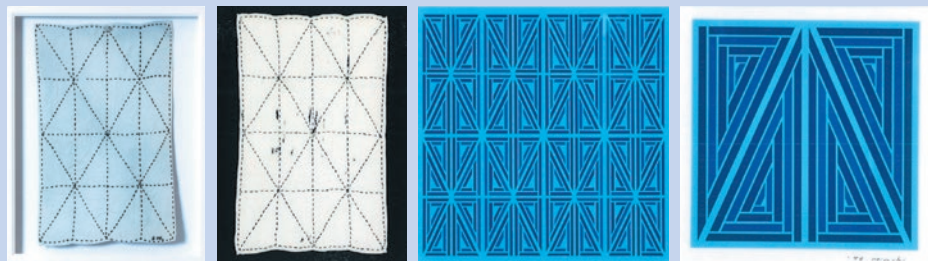
三好滋展

2021 4.17 [土] > 8.29 [日]

1939年、戦後の前衛美術を発表する場であった「読売アンデパンダン展」が廃止された。このことをきっかけに全国各地で野外展が開かれ、前衛美術を発表する場が生まれる。この動きは愛媛も例外ではない。1969年、70年に松山市で開催された「愛媛野外美術展」は、県内・近隣の県から集まった芸術家が、自己のエネルギーを解放させた展覧会であった。彼らの動きは、それまで閉鎖的であった愛媛の美術界に、新たな流れを呼び込んだ。

60年代後半より積極的なグループ活動を行っていた三好滋(今治市生まれ。1937-)も、そのうちの一人である。「愛媛野外美術展」以後も当時の精神を維持し時代を問いつける作品を発表してきた。

現代、愛媛の美術活動には、かつてほどの活発な動きは見られない。窮屈な時代を生きる私たちにとって、自由であった時代を見つめ直すことは、新たな自由、活性化への道標となるだろう。



上段左より 《植毛による版画作品(Ⅲ)》1975/作家蔵 《作品(I)》1975/作家蔵 《無題》1979/作家蔵 《無題》1979/作家蔵
中段左より 《WHITH MEDIA 三島由紀夫割腹事件》1973/作家蔵 《WHITH MEDIA 米兵隊募集》1973/作家蔵
《無題》制作年不明/作家蔵
下段左より 《円と光と動き》1968/作家蔵 《花》1973/作家蔵 《作品》1970/作家蔵

表面図版 左上《逝ったマリリン》1972/作家蔵 中上《Co.Ca-Cola》制作年不明/作家蔵 左中《折り》1975/作家蔵
右下《SIXTEEN FLAG》1975/作家蔵



【作家プロフィール】

三好 滋 みよし・しげる

1937年今治市生まれ。1960年代初めは油彩を取り組んでいたが、1968年開催「ビート'68(松山市)」に立体作品を発表したのをきっかけにグループ活動を活発的に行う。1969、70年開催「愛媛野外美術展」に参加。プラスチックの板を組み合わせた立体作品を展示した。以後、森堯茂、坪内晃幸らと共に現代美術の展覧会に参加する。

関連事業

ギャラリートーク「三好滋が追い求めるもの」 7月11日(日) 14時~15時

講師: 林道郎(美術批評家・上智大学教授)

場所: 町立久万美術館ロビー ※要予約・要観覧券

ワークショップ「万華鏡作り—円と光と動き」 7月10日(土)13時~16時

講師: 大嶋早苗 場所: 町立久万美術館ロビー 参加費: 3500円 ※要予約・要観覧券

学芸員解説 5月1日(土)、6月5日(土)、7月3日(土)、8月7日(土) 各14時~

講師: 当館学芸員 場所: 町立久万美術館展示室 ※要観覧券

KMA

Kuma Museum of Art

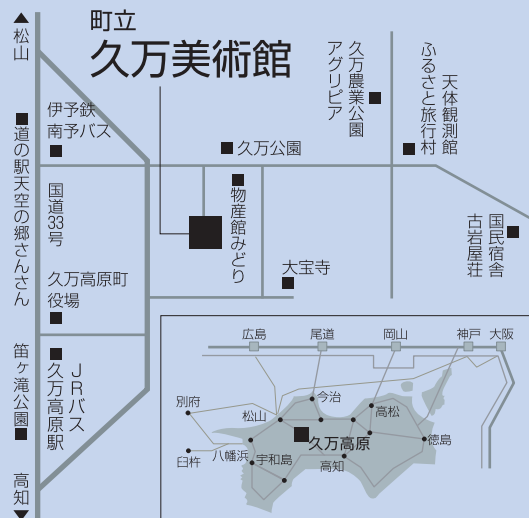
町立久万美術館

〒791-1205

愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7

電話: 0892-21-2881 / FAX: 0892-21-1954

http://www.kumakogen.jp/site/muse/



■[JRバス]松山から70分(ほぼ2時間毎、土・日曜・祝運休あり)予讃線松山駅から久万高原行「久万中学校前」下車徒歩約10分

■[車]松山市内から国道33号線で約50分、高知市内から約2時間松山自動車道松山ICから国道33号線を高知方面へ約30分、久万中学校前交差点を左折、国道12号(西条久万線)を0.8km東進、右側駐車場45台(無料)